

花と緑の情報をお届けします。

# Green Sketch

グリーンスケッチ

2004  
.....  
SPRING

23

Take Free

ご自由にお持ちください

特集

●緑豊かな都市環境の創出と保全

まちなかの緑の創出  
地域植生・自然との共生

にいがた春の散歩道 …④

「ジャーマンカリス」の見所をご紹介します。

植物に親しむ ……⑤

「春の寄せ植え」をご紹介します。

花と緑のイベント情報 ……⑦

県内のイベントをご紹介します。

●読者の広場 …………… 9

●花と緑のお悩み相談室 …… 9

●緑花センター掲示板 ……… 10



財団法人

新潟県都市緑花センター

にいがた「緑」の百年物語に参加しています。

緑百年物語  
100  
GREEN One Hundred  
Niigata

# まちなかの緑の創出

## 地域植生・自然との共生

### 平成15年度の特集を振り返って

平成15年度は緑と花のまちづくりをメインテーマに、美しい緑豊かなまちづくりを目指すため、住民の取り組みによる地域づくりなどを紹介しました。

#### \* 花と緑による地域づくり \*

花と緑による地域づくりの全国的な動きについて紹介しました。まちなかに地域の人たちの手で地域の庭をつくり、育んでいくコミュニティガーデンとその活動です。

緑化を推進する際は、私たちの暮らしの中に緑がもたらしてくれる効用を重視してきました。この特集では、地域づくりの視点から緑と花の活用方法を提案しました。

それは、緑や花が地域や人との結びつきのきっかけとして、非常に効果的であること。共有の庭として誰でも参加できるコミュニティガーデンが、ここからの緑化推進の新たな手法としての可能性があることです。

#### ※コミュニティガーデンとは

地域住民が主体となつてまちなかの空き地や公園などに緑や花の空間をつくり、そこに人々が活用し、交流できる共有の場を意味しています。



#### \* 家庭の緑化とまちづくり \*

緑や花のまちづくりの原点は、家庭の緑化にあるといえます。



近年のガーデンニングブームは緑や花への関心を高め、家庭での庭づくりが盛んになっていきます。丹精こめてつくられた個人の庭園を、広く一般に公開し観賞するオープンガーデンについて取り上げました。

- 地域の緑花の推進に役立っていること
- 町の観光資源となつていること
- 地域の枠を超えた人の交流が生まれていること

まちづくりの面からは、子供や大人、高齢者が緑や花に対する興味と関心を持ち、自発的に緑や花にかかわっていくことによつて、緑と花のまちづくりに貢献していると云えます。

緑と花のまちづくりには、「学校教育と緑」、「官民一体のパートナーシップ」、「地域住民の交流連携」といったことも重要なキーワードとなります。

緑と花の美しいまちにするためには、公共施設などの緑化を行政が支援するとともに、一軒一軒の家庭でも庭に木や花を植えるなどいかに地域へと広がり、互いに連携された緑と花のネットワークを形成する必要があると思います。

緑と花を通した人づくりは、家庭や学校、地域で植物に親しむ体験で生まれ、さらに人の交流が地域を越えて連携することにより、地域の担い手としての緑化活動の継続や広がりへと繋げる必要があります。

地域に密着したオープンガーデンは、家庭から始まる緑化推進の手法として、緑と花のまちづくりを進める上で、その果たす役割は大きいと言えます。

#### \* 緑を活かしたまちづくり \*

##### 緑花推進シンポジウム

昨年の秋、財団法人新潟県都市緑花センター主催の「地域からまちへ 緑を活かしたまちづくり」を副題とした緑花推進シンポジウムが開催され、これからの緑と花のまちづくりについて次のキーワードが出されました。(シンポジウムの内容は、情報誌22号で紹介)

# これから緑と花のまちづくり

これまででは、緑と花のまちづくりにおける人と緑との関わりの中で、緑の効果や役割についての話題を提供してきました。昨年の秋に開催された緑花推進シンポジウムでは、緑を活かしたまちづくりについて議論され、これからのまちづくりの緑のあり方について様々な意見をいただきました。そこで、平成16年度の特集では、緑豊かな都市環境の創出と保全について考えて行きたいと思えます。

## \* 地域の植生と自然との共生 \*

まちの中を緑化する場合、植栽する樹種の選定は、樹形の良い木や花の咲く木など見た目の良い樹種が選ばれてきたように思います。

どこのまちに行っても並木や公園に同じような樹木が植えられ、地域の特徴が感じられないといったことに繋がっています。植栽地の気候や土壌などの条件に関係なく樹種を選定すると、せっかく植えた木がその土地の環境にあわず、枯れてし



▲地域の植生をもとにつくられた「ふるさとの森」。

まうこととなります。

これからは、地域の植生を考慮した樹種選定が必要だと思えます。地域に昔からあった樹木や生活の中で利用されてきた樹木を、地域の特徴づくりとあわせて考えていく必要があると思えます。

地域の植生を基にした緑化は、野生の生き物の生息場所にもなります。

まちの中にも様々な緑やいろんな生き物が暮らせる空間をつくるのが大切だと思います。

## \* まちなかの緑の環境づくり \*

医療機関で、敷地内に地域の植生を取り入れ、自然と共生する緑の環境づくりを行っている事例を紹介いたします。

### ● 医療機関の取り組み

#### 川瀬神経内科クリニック（三条市）

8年前、田んぼが広がる場所に川瀬神経内科クリニックが開設されました。

国道8号線から下田村へとつながる道路に面し、隣接する三条工業高校のほか、今では周辺に住宅が立ち並び、近くには小学校があります。

クリニックでは以前から医療現場に緑を取り入れたいと考えていたそうです。本屋さんを介して、学校の森づくりの本の著者にお会いしたところ、クリニックでの森づくりに協力していただけることになりました。

痴呆のデイサービス施設の敷地にふるさとの森を

- 地域植物の保存育成 ..... 地域にある植物が絶えてきており、自然を守り、育てることが大切である
- 植物との触れ合い ..... 子供達に生き物の命の大切さ、育てる楽しみ、苦労を体験させる
- 植物の癒しの効果 ..... 医療現場に緑を取り入れることによって、自然に親しみながらリハビリをしたり、外来患者の方々と職員が緑によって癒されている
- 街の景観 ..... その土地、地域の自然や地域の特性と人間の営みとの接点で織り成されるものである
- 緑のネットワーク ..... 公園などが街の緑の核となり、川や山に繋がる線の自然があって、それを全体的に緑のネットワークとして形成する
- 点の緑からの拡がり ..... 緑の点を地域にふやすことにより、点から線、線から面へ緑化を広げる
- 地域植生と街のアイデンティティ ..... 植栽する樹種の選定は、在来植生を取り入れることにより、地域の風土、景観が一貫性、主体性を持つことになる
- 緑のエコトーン ..... 緑が違った質の場所をつなぎあわせる、境界線のようなものとして使うことにより、良好な景観の街づくりとなる
- これからの活動の方向 ..... 最初に情報の共有。意識づけ。行動。継続。人材の普及・拡大。そして得た情報をもとに再び情報の共有化を図る

つくりました。この森は、植生学の専門家の方も参画され、クリニックの周囲、半径3〜5kmの自然植生を調査し、それを基にプランニングされました。職員有志と患者さん達が協働して管理しています。何の経験もない中、手探りしながら行ってきました。植栽から3年が経過した頃、森の木が太らないこ

▼ふるさとの森の一部では春になるとフキノトウが毎年顔をだします。



ふるさとの森に看板が立てられています。



このことでわかったそうです。植栽した当時、幹は片手でつかめるほどの細さでした。今では雪囲いも必要ないほど大きく

とから、堆肥を大量に施してみました。すると、ぐんぐんと木が成長したそうです。自然の森は、これまでの長い年月でできあがった良い土がありますが、ふるさとの森は土を盛って築山にした場所に植栽しています。人工的につくった場所のため、土づくりが必要だということが、



▲ふるさとの森にジンチヨウグが咲いていました。



▲近くの五十嵐川などでかわせみが見られたことから、クリニックにもかわせみが訪れるよう施設の名称を「かわせみ様」としています。ここにはビオトープをつくります。

成長し、こんもりとした森になっています。この森を活用し、痴呆の患者さんは自然を取り入れた訓練プログラムを行っています。森で採れた種子は、他の敷地の緑化に利用しているそうです。

外来患者さんの施設も緑化を行っています。ここは、鳥を呼び込むことをテーマにしています。鳥を呼び込むには水辺が必要だということでビオトープをつくることになりました。

鳥の専門家の方からアドバイスを頂き、設計会社にプランニングしてもらいました。

この緑化には木を植えるだけではなく、数種類の鳥を呼び込む自然環境づくりを目指しています。自然の森の中では、食物連鎖の頂点が鳥（猛禽類）です。鳥がいる環境はすなわち鳥が食べる昆虫

## まちの中の緑の創エトピア

今回の事例は、まちなかの緑化に関して、いくつかのポイントがあったと思います。

一つは、樹木を植える場所の環境や土壌を知ること、その後の管理も含めて、その土地にあった樹種を選ぶということです。

もう一つはまちの緑が生き物の生息する場所とな

ることです。私たちがまちの中で鳥や昆虫、自然と触れ合える貴重な場所であることを考えていく必要があります。

緑豊かな都市環境は、緑をふやすだけでなく、今ある緑を守っていくことも重要であるといえます。

などが多くいる場所だといえます。

このビオトープづくりは、まだ始まったばかりです。現在、植栽場所の整備や植栽は、職員を中心に少しずつ行っています。

クリニックでは、緑を取り入れて、患者さんが自然と触れ合える環境づくりを行っています。さらに、この緑が周囲の山などからの鳥の立ち寄り場所となれば、まちの中に鳥を見ることができるようになります。緑によって、人と自然、野生の生き物とが共に暮らせる環境にしたいとお話を伺いました。

ふるさとの森の中で木々に囲まれていると、ほっと安らぎます。クリニックの緑を通して、まちの緑の大切さを感じました。

※この事例は、当センターが行っている緑花助成事業「まちなか緑花推進助成事業」を活用して実施しています。



# 春の寄せ植えづくり

寄せ植えは、いろいろな植物を組み合わせる一つのプランターに植栽し、自分だけの小さな庭を楽しむことができます。今回は、春の草花を使った寄せ植えをつくりまします。完成した寄せ植えはご自宅の玄関などに置いて、お客様にも楽しんでいただきまします。



## ポイント

寄せ植えをする前に4つのポイントをおさえておきましょう。

Point

1

### 性質の似た植物を選ぶ

日当たりを好む植物と日陰を好む植物、乾燥に強い植物と弱い植物などを同じ鉢で育ててもやがてどちらかが枯れてしまいます。植え付け後の管理のためにも、同じ性質の植物を選ぶことが大切です。

赤系統の色でまとめる、黄系統の色でまとめる、青系統の色でまとめるというように、同じ系統の色合いのものにするのとまとまりやすくなります。注意点は、まったく同じ色にせず、黄色を選んだら、オレンジ色やレモン色、クリーム色の花を組み合わせるといように微妙に色をずらすことです。また、黄色と紫・青のような反対色による組み合わせもメリハリがあって面白くなります。どちらかの色の分量を多くすると、少ない色がアクセントになります。

Point

2

### 花期が同じ植物を選ぶ

開花時期が同じ植物を集めて植えると、いっせいに咲いた花を楽しむことができます。花を長く楽しみたい方は、花期の長い植物を選んでください。

Point

4

### バランス

植物の草丈を考えて配置しましょう。草丈の高いものは、中心もしくは後方に配置させることで安定感ができます。中心に配置した場合は、そのまわりに低いものを配置し、緑にしだれる植物を置くとよいでしょう。後方に配置した場合は、手前に草丈の低い植物を植えます。

Point

3

### 色の組み合わせ

同じ系統の色、もしくは反対色の組み合わせにするとまとまります。例えば、

## 今回使用する植物の 解説と管理について

### ●ユリオプス デージー

【キク科 多年草】

葉は深い切れ込みがあり、銀葉。水はけのよい用土を好む。花期が長く、追肥と花がら摘みを。花後、切り戻す。



### ●ノースポール

【キク科 1年草】

日光を好み、乾かしすぎると葉が枯れるので水切れに注意。伸びすぎたら刈り込むとよい。アブラムシに注意。



### ●マーガレット

【キク科 多年草】

梅雨前まで楽しめる。開花が長いので月1回は液肥を。木化するので、ときどき切り戻す。日当たりと風通しのよい場所、水はけのよい用土を好む。



### ●ブルーデージー

【キク科 多年草】

日当たりを好む。花後、切り戻すと秋に再び開花する。アブラムシに注意。やや寒さに弱い。比較的丈夫で育てやすい。高温多湿を嫌うので、夏は半日陰の風通しのよい涼しい場所に置き、冬は室内の明るい場所で管理する。



### ●ゴールドクレスト

【ヒノキ科 常緑低木】

針葉樹を総称してコニファーといいますが、コニファーのなかでも最もポピュラーな品種。日なたと水はけのよい用土を好む。



### ●パンジー

【スミレ科 1年草】

日なたと水はけのよい用土を好む。



### ●アイビー

【ウコギ科 つる性木本】

日なたから半日陰と水はけのよい用土を好む。



## 春の草花で寄せ植えをつくってみましょう！

# つくって みよう！

### ●使用する植物

- ・パンジー
- ・ユリオプスデージー
- ・ノースポール
- ・マーガレット
- ・ブルーデージー

### ●準備するもの

- ・アイビー
- ・ゴールドクレスト
- ・ボールプランター
- ・鉢穴ネット
- ・培養土

- ・ゴロ土
- ・土入れ、割り箸



### 1 ゴロ土を敷く

水はけを良くする為にボールプランターの底に約2cmくらいゴロ土を敷きます。(ここでは赤玉土の大粒を使っています)鉢穴ネットがずれないように注意します。



### 2 培養土を入れる

ゴロ土が隠れるくらいに培養土を入れます。手で土を押さえて1cmくらいまでいれます。



### 3 苗を配置する

少し土が入ったところで、植物の配置を考えます。どこに向を配置するのか、事前に決めておくと、植え付ける時に悩まずに済みますし、作業も手早くできます。全体のバランスや色どりを考えながら、鉢のまま並べてみましょう。実際に配置してみるとよくわかります。皆さんの好みの配置になるよう、いろいろ並べ替えてみてください。今回の例では、一番背の高いゴールドクレストが後ろ、草丈が低いものを前方に配置します。このように配置すると、正面から全ての植物を見ることができます。花色は、黄と青の反対色の組み合わせに、白をプラスしました。



### 4 植付ける

ポットを引き抜いて、苗を配置します。一番奥に配置するゴールドクレストを起点として順番に植え込んでいきます。ポットから抜いてみて土がガチガチに固まっていたら、根と土を軽くほぐしましょう。それぞれの植物で根鉢の大きさが異なります。鉢土の高さが同じになるよう培養土をいれて高さを調整します。



### 5 仕上げる

植え終わったら、隙間がないか確認します。苗と苗の間などに割り箸などを入れて隙間のないよう埋めていきます。土はプランターの高さより3cm程度下まで入れます。植え付けた後は水をたっぷり与えましょう。



## 長く楽しむために、管理に気をつけましょう。

### ●置き場所

日当たりと風通しの良い場所に置きましょう。ただし、アスファルトやコンクリートの上に置くのは避けます。夏場は地面から焼けてきますので、どうしても場所がない場合は、ブロックや木などの台をおいて、その上にのせましょう。植物が成長すると株が込みすぎて風通しが悪くなります。そのため多湿になり病虫害の原因になるので、切戻して株を整理しましょう。

### ●肥料

緩効性の化成肥料を用土10リットル当たり40~50グラム混ぜます。培養土に配合済みの場合には必要ありません。プランターは水やりの回数が多く、肥料が流亡しやすいので、春から秋までの生育・開花期には1か月に1

回の割合で、緩効性の化成肥料をほどこすか、液肥を1000倍に薄めて10日に1回水をあげるときにたっぷりあげます。

### ●水やり

表面の土が乾いたら鉢底から流れでるくらい水をたっぷり与えてください。鉢土全体に水がいきわたるように、まんべんなく与えましょう。その際、花や葉に水がかかるとその部分が目や腐りやすくなり、病虫害が発生する原因になります。水がかからないよう株元にやりましょう。

### ●花がら摘み

咲き終わった花や枯れ葉は、そのままにしておくと病虫害の原因になります。こまめに除去しましょう。